

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 29年 1月 26日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470900659		
法人名	特定非営利活動法人はあとろーむ		
事業所名	グループホームたんぽぽ		
所在地	広島県三原市和田3-10-19 (電話) 0848-81-0670		
自己評価作成日	平成28年7月27日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=3470900659-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成29年1月24日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

みんなで一緒に楽しく過ごせるように、寄り添いながら、馴染みのあるサービスを提供することを目指しています。理念である「今、ここで楽しんで」「今、ここで笑って」「今、ここで輝いて」を念頭に、一人ひとりのペースでゆったりと生活出来るよう環境整備に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

毎日の買い物や気候が良ければ、散歩などに出掛けるようにしている。周辺がアパートなどの地域であり、近隣住民との交流が難しい状況であるが、外出を通して、日々顔を合わせることで、地域の皆様と自然な付き合いが出来ている。食事は三食手作りとし、1日30品目を目標に食材及びメニューを利用者と一緒に考えている。なるべく季節の食材を購入して、調理し、毎食の食事が楽しみになるようにしている。職員は利用者に寄り添いながら、利用者個々の気持ちを汲み取り、希望に応じた支援をしている。『生活の足跡を残してあげたい』思いで、職員間で話し合いを重ねながら、日々の支援をしている。理念である「今、ここで楽しんで」「今、ここで笑って」そして「今、ここで輝いて」を基に、一人ひとりのペースで生活出来るように、生活環境の構築に努めている。今後も、家族の協力を得て、利用者の生活を充実させていきたいと考えている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	ミニミーティングなどで、笑顔という言葉を出し、日々の中で笑顔を引き出せる様な声かけをする様にしている。	開所当初からの理念を念頭に置き、各ユニット共に理念の実現に向けて取り組んでいる。職員も年2回、管理者との個別面談を行い、職員の個人目標を設定することにより、理念に関しての意識を維持・向上し、実践に繋げるようにしている。日々のなかで、利用者の笑顔を引き出すように、寄り添った支援を心掛けている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	民生委員の方から、地域行事の情報を貰い、参加していきたい。(子供みこしを玄関先で出迎えるなど)	買い物や周辺の散歩時に、地域の方々と挨拶を交わしている。地域情報については、民生委員から情報を頂き、地域の祭りを観覧したり、子ども神輿が事業所を訪れることもある。地域行事や節分行事には、子どもが訪れることもあり、自然な関わりが出来ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	キャラバンメイトとして、声が掛ければサポーター養成に協力出来る体制にある。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	地域へ出掛けて行くための地域情報を、得るようにしている。	2ヶ月に1回開催されている会議の内容は、①近況報告②活動報告③助言・要望などである。参加者との意見交換や随時連携を行い、そのなかで地域情報やアドバイスを頂き、利用者の支援及び運営に繋げている。家族の参加が、特定者のみのこともあり、議事録送付や開催日時を変更した経緯がある。	家族の参加が特定者および不定期のため、定期的な参加が望まれます。今後の取り組みとして、①家族参加ができる行事案内②利用時や、随時、会議の目的を説明③来所時に意見を聴く方法など工夫し、それらの意見を踏まえた取り組みを望みます。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市の窓口へ行き、気になる事は相談するようにしている。	運営推進会議には、市の福祉保健課の職員が参加している。事業所として困難事例を引き受けたケースもあり、直接利用相談を受けることも多い状況である。担当者とは、随時、連絡や、直接出向くなどを行い、協力関係を築くように取り組み、サービスの質の向上に繋げている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>日々の申し送り、報告等で自覚しない身体拘束が行われていないか、ケアを振り返るようにしている。</p>	<p>過去、無断外出された方がおられ、それらを教訓に1階玄関に、センサーチャイムの設置やホームエレベーターが作動しないように、安全に配慮している。職員は、具体的な介護方法を学び、身体拘束をしないケアを意識し、環境調整に努めている。利用者の支援について疑問に思う時は、その都度、話し合いを持つようにしている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>研修に行き、気になる所は話し合うようにし、勉強会も行っている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>成年後見人制度を利用している人はいないが、必要な人には紹介するようにしている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>時間を取って丁寧に説明し、重度化や看取りの対応についても説明している。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>言葉として発せられる意見は採り上げているが、運営に反映するには至っていない。</p>	<p>毎月、事業所での生活状況を家族に送付している。状態変化があれば、家族の来所時や、その都度連絡し、生の声を聴くよう努力している。要望があれば、スタッフルームの付箋ボードを活用し、その都度、申し送りなどで話し合いをしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	要望や意見を聞くよう、声掛けてはいるが、不満や苦情は言い難い部分も多いと思われるので、把握しきれていない所がある。	利用者の支援や職員の勤務シフトなどの話し合いが多い状況である。日々の疑問や提案については、ユニットリーダーを経由したり、直接、管理者へ話すこともある。その内容については、連絡ノートを活用や、必要時は、その都度ミーティングの回数を増やして協議している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	キャリアパスの導入や、資格取得に向けた研修への参加を勧めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	個人の力量、状況に応じて行っている。また、外部研修に参加した人には、所内研修の場を設けるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	研修では、同業者と交流する機会を持つようにしてるが、地域の同業者とは思いうように出来ていない。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	サービス利用について相談があったときは、必ず本人に会って、心身の状態や本人に向き合い、本人に受け入れられるような関係作りに努めるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	これまでの経緯についても、ゆっくり話しを聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	状況等を確認し、必要なサービスにつなげるようにしている。他の事業所へ紹介も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	お互いが協働しながら、和やかな生活ができるよう、場面作りや声掛けをしており、少しずつ出来ている。食事作りや掃除など、出来ることを少しずつ共にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	日々の暮らしの出来事や、気付きの情報共有に努め、本人を支える姿勢でいる事を伝えるようにしており、少しずつ築いていけている。月に1回、便りを出したり、来所時の会話を大切にしよう心がけている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	行きつけの美容院に行かれる方もある。親戚、元近所の方などとの面会も歓迎している。	行きつけの美容院へ行ったり、親戚、元近所の方などとの面会がある。外出先の内容によるが、家族の対応をお願いする場合がある。個別対応について、家族と十分協議し、実施するなか、表情の変化が出るようになってきている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	お茶や食事の時間をスタッフも共に過ごし、少しでも会話を多くするようしたり、役割・活動等を通して、利用者同士の関係がスムーズに行くように努めている。レクレーションや利用者同士で、協力し合っておやつ作りなどを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	継続的な関わりを必要とするケースが、今は無い。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で声をかけ、把握に努め、言葉や表情などからその真意を推し測ったり、それとなく確認するようにしている。	日々の関わりから、本人の意向や家族の意向を把握している。個々の生活歴や利用後の生活を把握するなか、個別対応のサービスを提供している。介護記録には、本人の発言内容を取り入れ、役割や楽しみごとを見つけ出し、日々の関わりのなかで、笑顔が増える試みを心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人自身の語りや家族の訪問時など、少しずつ把握に努めており、徐々に情報がとれている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	できること、わかることに注目し、その人の全体の把握に努めるようにしている。変化に対応できるよう、その都度、見直しを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>利用者によっては、家族との話し合いが十分に出来ていないケースがあるが、短時間でも極力話しをするようにしている。本人の認知のレベルによっては、本人の思いが十分に把握できず、反映しきれないケースもあると思われる。変化に応じて、見直しも行っている。</p>	<p>「ここに居て、元気に過ごし、その日、その日、話をして、笑って過ごして頂く」想いで、計画作成をしている。その都度、本人の生活の意向や家族の意向を把握したなかで、介護計画に反映し、変化に応じて見直しを行っている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>個別ファイルを用意して、日々の暮らしの様子や本人の言葉を記録する様になっている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>家族の通院介助が困難な場合、近隣の往診して下さる病院を紹介している。突発時・急変時の受診に置いては、状況に応じて対応している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>利用者が安心して地域での暮らしを続けられるよう、民生委員と意見交換する機会を設けている。屋外に出たときは、こちらから挨拶したり、働きかけを行っている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>本人や家族が希望するかかりつけ医となっており、要望、状況に応じて対応している。</p>	<p>今までの病状などのこともあり、利用時に相談しながら、かかりつけ医を決めている。定期的な通院は、家族の付き添いをお願いし、緊急時の場合については、職員付き添いのもと受診している。協力医の往診体制や看護職員の配置により、適切な医療を受けられる体制が整っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	グループホームの看護師と共に、常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	入院時には、本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、頻繁に職員が見舞うようにしている。		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	重度化に伴い、事業所が対応し得る最大のケアについて説明を行っている。	医療行為が出来ないことを契約時に説明している。終末期の経験を生かし、「重度化した場合の対応について」に準じ、家族と十分に話し合いを持つようにしている。重度化や終末期には、主治医に意見を聞き、家族と検討を行い、事業所として、最大限可能な範囲で対応している。	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	事故発生時には事故報告書を書いて、再発防止に繋げている・ミーティングを行う。		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	マニュアル作成し、避難訓練を行っている。	火災や地震、水害など、各種マニュアルを整備し、定期的な訓練を実施している。2階には、災害グッズが準備されている。地域との協力体制を築くために、訓練開催時は、地域住民に案内をしている。	地域との協力体制が築けていない部分が見受けられます。災害時には、近隣住民との連携が不可欠なこともあり、運営推進会議などを通して、地域住民との協力体制づくりに、働きかけることを望みます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	記録には利用者の名前を書かないようにし、他の家族や外来者に対して、スタッフが本人のプライバシーに関する話を話さないようにしている。	記録は、個人が特定できないように、氏名を記入しないようにしている。各職員が配慮して、利用者の一人ひとりの人権・権利を意識しながら、声掛けには十分気をつけた対応をしている。なお、職員の出勤時・退勤時にも、近隣住民に迷惑にならないように、運転マナーが徹底されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	複数の食材を提供して、選んでもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	この人と一緒にと決めて、その時間はその人のペースを大切にし、会話を楽めよう関わっている。またバイタル測定・体重測定を行い、体調にも配慮している。歌が好きな方とは歌を、折り紙の好きな方とは折り紙を、と工夫している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	行きつけ店がある場合は、そこへ行く様に努めている。家族から要望があれば、早めに行く様に心掛けている。季節に応じた洋服選び、衣替えなども一緒に行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食材を見て頂いてから、メニューと一緒に決めたり、片付けを出来る人にはしてもらい、盛りつけも一緒に楽しみながらして頂いている。職員も一緒におやつ（時に食事）をし、見守りながら会話を楽しんでいる。	毎日買い物へ行き、食材を調達し、1日30品目を目標に、食材及びメニューを利用者と一緒に考えている。利用者にも個々の能力に応じて、下準備・配膳や片付けをして貰っている。随時、おやつ作り（どらやき、フルーツポンチなど）を楽しんでいる。以前から、お酒を飲んでいた習慣から、飲用される方もいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひと りの状態や力、習慣に応じた支援をし ている。	食事状況を記録し、スタッフが情報を共 有するようにしている。毎食、コップ2 杯以上は飲んでもらう様になっている。体 調に応じて、食事内容・形態を変えたり、 冷たいもの・暖かいものと、変化を 付ける様になっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている。	一人ひとりの口腔状態に応じた、歯磨き の手伝いを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄のパターン、習 慣を活かして、トイレでの排泄や排泄 の自立に向けた支援を行っている。	自分でトイレに行けない人は、時間を決 め誘導、介助している。自分でトイレに 行かれる方でも、本人の様子を見て、声 をかけるなどしている。	トイレは、2カ所有り、その内1箇所 は、車いすの方も使用可能である。トイ レに座ることを基本としたケアに取り組 んでいる。なるべく薬に頼らない工夫と して、食材を1日30品目を目標に食し て頂き、適宜、水分摂取に心掛け、便秘 予防に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲 食物の工夫や運動への働きかけ等、 個々に応じた予防に取り組んでいる。	適度な運動や水分摂取に気を付けてい る。便通時は、分かりやすい様記録には 赤で線を引き、排便のない時は食事内容 のチェックし、水分をしっかり摂っても もらうなどの支援を行っている。内服薬コ ントロールが必要な方は、状況に応じて 飲んでいただいている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わ せて入浴を楽しめるように、職員の都 合で曜日や時間帯を決めてしまわず に、個々に応じた入浴の支援をしてい る。	昼間に入ってもらっているが、本人が入 りたくなければ翌日に回す様、本人の意 志を尊重している。声かけや誘導の仕方 など工夫もしている。	毎日入浴することも可能であるが、最 低、週2～3回は入浴を行い、清潔保持 に努めている。個々の状態や体調に合わ せ、ゆったりとした時間を使って、入浴 支援を実施している。季節に応じて、温 泉気分を味わって頂く方法として、バス クリン（ゆずなど）を活用して、ゆっく り入浴が出来るようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	1人ひとりの生活リズムを大切に、いつでも自室へ行けるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個別に、毎食後の薬を分け、手渡しにより、きちんと飲んだか確認している。自分で飲むことが難しい方は、スタッフがついて、確実に飲んでいただいている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	その人の力を生かした役割が、楽しみになるように支援している。折り紙・ちぎり絵など、出来る所をしていただきながら、毎月の作品作りを行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	散歩や散髪等、近所に車いすで行っている。	特に気候が良い時期は、柔軟に外出支援をしている。買い物や散歩に出掛けたり、花の水やり、シーツ干しなど、個々の能力に応じて活動して貰っている。家族の協力を頂き、個人で外出（外食、散歩、家に帰るなど）をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	自己管理が難しい面や、利用者同士のトラブルを避けるためにも、持たないようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	生活している様子など、毎月、書面にて家族に報告している。イベント時の写真も、請求書と一緒に送付している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	リビング前の庭には、季節の花や野菜を植え、成長を楽しんでいる。また畳スペースでは、足を伸ばしてくつろげる様になっている。壁には、季節を感じられる様なものを掲示している。	近所の方から、お花や植木を頂くことが多く、玄関前などに飾っている。事業所内は、なるべく落ち着ける生活空間にするため、飾り付けは必要最小限にとどめている。利用者の大半は、リビングで過ごすことが多く、一人ひとりが、心休まり安心して生活出来ている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	畳に座り、テレビを見るスペースや、ベンチ、ソファを置いて、仲のいい利用者同士で寛げるスペースを作っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者の好みや馴染みの物などを、部屋に持ち込んでもらい、居心地の良い生活空間作りに努めている。	ベッド、エアコン、カーテンは事業所で用意している。使い慣れた寝具や家具など、生活必需品を自由に持ち込め、本人が安心して過ごせる場所となるよう、本人や家族と相談しながら工夫している。1日2回は、換気を行い、体調管理に配慮している。	
55		○一人ひとりの方を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	利用者の状況に合わせて、手摺りや家具の配置等、家族と相談しながら工夫をしている。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームたんぽぽ

作成日 平成29年5月1日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	13	地域との協力体制ができていない	地域との連携の構築	消防署との防災訓練への地位住民の参加呼びかけ	本年度中
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には, 自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は, 行を追加すること。